

チャレンジを続けた先に 見つけた新しい選択肢

金澤 智さん(19歳)
株式会社カナタ 代表取締役 CEO

Kanazawa Satoru

上越市生まれ。幼い頃に両親の都合で長岡市へ移住。ITベンチャーで書店開業事業や、デザイン事務所での勤務を経験後、2024年9月に株式会社カナタを設立。



NAGAOKA PLAYERS

デザインによる
確かな価値で
長岡を盛り上げる！
金澤 智

活動の根っこ

19

歳という若さで株式会社の代表取締役という肩書きをもつ金澤智さん。幼いころの夢は、よく見ていたテレビ番組の影響で考古学者だったそうです。「いろんな世界を知りたい」と思うきっかけになったのは中学1年生で参加したロサンゼルスで約2週間を過ごすプログラム。多様な人種・文化を肌で感じたことで国際交流にも興味を湧き、数多くの留学プログラムがあった長岡工業高等専門学校に入学しました。しかし、入学当時はコロナ禍。海外はもちろん、長岡市外にも出ることが難しい状況でした。

それでもなにかできることはないかと模索していた時、SNSで高校生が国際交流を行う市民活動団体WA!!（以下、WA!!）の存在を知りすぐに「参加したい」とメッセージを送りました。WA!!の活動ではア



WA!!で開催した「ミャンマー展」。募金活動も行い、ミャンマーの支援団体に寄付。

フガニスタンやミャンマーの展示会や、クリスマスパーティーなどの運営を行いました。2022年度には団体の4代目代表も務め、リーダーという立場をはじめた経験。慣れないこともありましたが、「失敗してもまたチャレンジができることを経験できた」と話します。

学内では友人から「面白いよ」と誘われて、アントレプレナークラブ（以下、アントレ部）に入部。初めて体験したビジネスコンテストに夢中になり、個人的にも様々なコンテストやプログラムに参加するようになりました。「その時に出会った参加者とチームを組んで、ビジネスプランを考えていく。最終発表の直前までプレゼン資料や内容を考え尽くす過程が楽しい」。それまでは人生の中になかった“起業”という選択肢が見つかったと話します。そして、2024年9月にデザイン事業や新規事業開発に取り組む会社を設立。メンバーは、これまでの活動の中で出会った同世代の仲間たちです。

市民活動は気軽に挑戦でき、同じような価値観でアクションを楽しめる人

企業と学生をつなぐ長期型インターンシップのアイデアでグランプリを受賞。



と出会える場。興味関心のある分野でスモールチャレンジを重ねたWA!!での活動や、起業家や社長たちにアイデアを壁打ちしてもらいながら事業計画を立てていくアントレ・ビジネスコンテストの経験が、「起業したい」という気持ちにつながりました。

「長岡には、いろんなことにチャレンジできる環境が整っているの、その環境を利用してたくさんチャレンジしてほしい」。その想いには、多くの団体が存在し、挑戦できる環境がある長岡への感謝の気持ちがありました。WA!!やアントレ部からは卒業していますが、OBとして後輩からの事業やイベントの相談にも応えています。また、今後は学生イベントを企業協賛ということ。支援されていた人が、次の世代を支援していく、そんな循環がこれからも長く続いていくことを願っています。

補助金をステップに、市民に新しいサービスを届ける！

事業名	持続可能な『ベテラン助産師が伝えるプレママサロン』の実施事業
実施日	2023年3月5・11日
場所	長岡市幸町 さいわいプラザ
団体名	ウィメンズヘルス lab.
補助額	430,000円（総事業費 517,905円）
使途	広告宣伝費、物品購入費など



模型や人形を使ったレクチャーで、初妊婦さんにイメージを持ってもらえました。

- 助産師が中心となり、地域の集いの場から企業など幅広い場所で乳がんの早期発見・予防の啓発活動を開催してきたウィメンズヘルス lab。
- コロナ禍の影響で他の妊産婦と交流する機会がなく、不安を抱える妊婦さんの声を聞き、新たにお産や赤ちゃんについて学べるマタニティサロン事業を立ち上げようと補助金申請しました。
- 補助金では、サロンに必要な新生児人形や、胎児超音波心音計などの備品を揃えるとともに、新たにWEBサイトを開設。今後もサロンを続けられる体制を整えました。
- 当日は会場参加だけでなく、自宅からでも講座を聞けるよう動画配信を実施。集客などで反省点はあったものの、進行方法や参加費など継続のためのヒントがたくさん見つかりました。
- この取り組みは現在、ながおかマタニティサロン「BabySpoon」となり、令和5、6年度も年間を通じて定期的に開催しています。

長岡市未来を創る
市民活動応援補助金

補助金 事例紹介

一番不安な時に、いろんな人と繋がりが、気軽に相談できることは非常に大切ですね！



今月の伝授テーマは

若い世代を巻き込むには“動機”に着目しよう！



自分たちの活動に、若い人たちにもどんどんと入ってきてほしいと思っています。どんなことをしたら、もっと若者たちに関わってもらえるでしょうか？



どんな活動も、若い人たちが関わってくると元気が出ますよね。最近の若者たちは、環境教育や、探究学習など教育内容の変化によってか、社会貢献やボランティアに関する関心や意識が高まってきていると言われています。

「貢献意欲が高まっているなら、若い人も仲間になってくれるかも!？」とつい期待を抱いてしまいがちですが、そう簡単なものではありません。それは、世代によって社会貢献活動に参加する動機が違うからです。

社会貢献活動への参加動機因子を性別や世代などで

比較した研究によると、若者層ほど利己的な動機が強いようです。具体的には「自己成長と技術習得・発揮」「レクリエーション」といった動機です。一方で、年齢が高くなるほど「利他心」や「理念の実現」「社会適応」といった社会的な動機のほうが強くなる傾向があるようです。

私もそうですが年長者や実践者ほど、人を活動に誘う際に自分たちの活動の「テーマ」や、向き合っている「社会課題は何か？」など、社会的意義を大きくアピールしがちです。けれど、それだけでは若者の心は動きません。人に行動してもらうためには、相手の気持ちに寄り添うことが不可欠。若者に参加してもらうためには、「成長できるか?」「スキルが身につくか?」「楽しそうか?」「友だちができるか?」といった彼らの動機に合わせて誘い方を工夫することが効果的かもしれませんね。

(ながおか市民協働センター 唐澤頼充)

〈虎の巻〉を
動画で解説中

